

2024-2025 フィンドレー大学・福井県奨学生修了報告書

作成者：若原きなり

作成日：2025年5月21日

この奨学生制度に応募を決めた2023年4月から今日までの2年間は、あっという間でありながら非常に充実したものでした。医学の勉強と並行して、できるだけ英語に触れる生活を心がけ、留学への期待と不安が入り混じったあの時期を、今ではとても懐かしく感じています。20年間、福井県で生まれ育った私にとって、10ヶ月間の海外生活はかけがえのない大きな経験となりました。本報告書では、大学での授業、課外活動、文化交流について振り返りたいと思います。

アメリカで現地の学生と一緒に大学の授業を受けるということは、留学における最も大きな不安要素のひとつでした。しかし、実際には自分が思っていたよりも授業についていくことができ、大きな自信に繋がりました。心理学や教育学では、医学と関連のある内容を英語で、かつ異なる視点から学ぶことができ、とても貴重な経験となりました。それ以外にも、日本ではなかなか履修できない、文化やスピーチに関する授業など、幅広い分野を学ぶことができました。秋学期・春学期ともに履修上限いっぱいまで授業を取り、ほぼすべての科目でA評価をいただくことができました。

毎週の病院見学と保育園でのボランティア活動は、私にとってとても貴重でかけがえのない経験でした。これらは奨学生制度に必須の活動ではなく、自ら希望して行わせていただいたものです。フィンドレー大学の川村先生をはじめ、多くの方々のご支援とご協力があったからこそ実現できた活動であり、心より感謝しております。病院や保育園のスタッフの皆様には、通常業務のお忙しい中、私の学びと経験のために多くの時間と労力を割いていただき、感謝してもしきれません。

この留学を通して、多くの文化交流を経験することができました。日本人代表として日本文化を紹介したり、現地の文化交流イベントに参加したり、友人たちとの日常を通じての文化交流ができました。こうした経験を通して、日本文化や福井県の素晴らしさを再認識することができました。また、他県からの日本人奨学生との出会いも、私にとっては非常に大きな財産です。年齢や学部、出身地も異なる彼らと友情を育むことで、さまざまな価値観や生き方に触れることができました。さらに、日本のみならず世界中にたくさんの友人ができたことを心から嬉しく思っています。フィンドレーで出会った3人のアメリカ人は、福井大学への留学を希望しており、また他にも日本への旅行や留学を考えている友人も多くいます。彼らと福井や日本で再会できる日を楽しみにしています。

これまでの月間報告書や本報告書では書ききれないほど、多くの経験をさせていただきました。1年間、医学の分野から離れたことで、同級生と比べて遅れを取ってしまうのではという不安に悩んだこともありましたが、それでもこの留学を選んで本当に良かったと心から思っています。留学前から留学中にかけてお世話になったすべての方々に、心より感謝申し上げます。この貴重な経験を福井県に還元できるよう、今後の学びや研修にいつそう励んでまいります。本当にありがとうございました。

本報告書についてご質問、お問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡 ください。

wakaharak@findlay.edu